

福祉サービス第三者評価

〔令和6年度〕

評価結果報告書

株式会社MIRATZ
MIRATZ駒込保育園

評価機関 有限会社エテルノ

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>（理念）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未来の希望に向かって発展・向上する明るい元気な子供を育む ・心豊かなエコ環境と優しい地域社会に生き生きと共生する子どもを育む ・みんなを親しみ愛し、太陽のように暖かい心を持った子どもを育む
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模園ならではの丁寧な保育をし、子ども・保護者・職員としっかりコミュニケーションが取れる人材 ・考え方に余裕が持てる人材 <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <p>それぞれの業務に最後まで責任感を持ち、子ども一人ひとりの気持ちを受け止める包容力を持って欲しい。</p>

調査対象

保育園に通っている園児13世帯13人に対して調査を行った。同一保育園に2名以上の園児を預けている場合には、年齢の一番低い園児に対して回答して頂いた。

調査方法

保育園の職員が調査票を保護者へ配布した。記入された調査票は封緘のうえ返信用封筒による郵送、または保育園に設置した回収箱により収集した。結果は選択式・自由記述式ともに園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。

利用者総数

13

利用者家族総数(世帯)

13

共通評価項目による調査対象者数

13

共通評価項目による調査の有効回答者数

11

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

84.6%

利用者調査全体のコメント

総合的な感想として園に対する満足度は、「大変満足」45.5%、「満足」36.4%の計81.9%であった。自由意見では、「子どもにたくさんの経験をさせてくれます。とても良い園だと思います。」「日々の様子を毎日詳細に連絡帳で教えていただけるので大変助かっております。」など、子どもや保護者への配慮など職員の対応、日常の保育などに対する感謝の声が寄せられている。向上または検討を望む意見としては、保護者とのコミュニケーションに関することや保育内容、職員の子どもや保護者への対応、設備に関する事など、回答者個々の考え方や気になる点が寄せられている。設問別では、「心身の発達」「興味や関心」「食事」「自然や社会との関わり」「保育時間の変更」「安全対策」「行事日程」「信頼関係」「整理整頓」「接遇」「病気やけが」「気持ちの尊重」「保育内容の説明」「不満や要望の対応」などの17問中14問が80%以上の支持を得ており、50%を下回ったのは「トラブル対応」「苦情窓口」の2問である。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	11	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「友だちとの関わり、季節行事、親が面倒になってしまうことをたくさんしていただき感謝しています」という声が寄せられていた。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	11	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	11	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「毎日バランスも良く美味しそうです。誕生日会の時は見た目もかわいいです」という声が寄せられていた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	11	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	10	1	0	0
「はい」の回答は90.9%、「どちらともいえない」の回答は9.1%であった。 自由意見では、「いつも助かっています」という声が寄せられていた。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	11	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	10	1	0	0
「はい」の回答は90.9%、「どちらともいえない」の回答は9.1%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	10	1	0	0
「はい」の回答は90.9%、「どちらともいえない」の回答は9.1%であった。 自由意見では、「毎回連絡帳に日中の様子などを細かく記載してくれ、よく見てくれていると安心しています」という声が寄せられていた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	10	0	0	1
「はい」の回答は90.9%、「無回答・非該当」の回答は9.1%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	9	0	1	1
「はい」の回答は81.8%、「いいえ」の回答は9.1%、「無回答・非該当」の回答は9.1%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	9	1	0	1
<p>「はい」の回答は81.8%、「どちらともいえない」の回答は9.1%、「無回答・非該当」の回答は9.1%であった。 自由意見では、「とげが刺さったことに気づいてすぐに電話を下さり、昼食や午睡の合間をぬって病院へ連れて行ってくださり感動しました」という声が寄せられていた。</p>				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	5	1	0	5
<p>「はい」の回答は45.5%、「どちらともいえない」の回答は9.1%、「無回答・非該当」の回答は45.5%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。</p>				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	10	0	0	1
<p>「はい」の回答は90.9%、「無回答・非該当」の回答は9.1%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。</p>				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	8	0	1	2
<p>「はい」の回答は72.7%、「いいえ」の回答は9.1%、「無回答・非該当」の回答は18.2%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。</p>				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	9	1	0	1
<p>「はい」の回答は81.8%、「どちらともいえない」の回答は9.1%、「無回答・非該当」の回答は9.1%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	9	0	1	1
<p>「はい」の回答は81.8%、「いいえ」の回答は9.1%、「無回答・非該当」の回答は9.1%であった。 自由意見では、「水分摂取について、食事の時はコップの方がよく飲むのでコップを使用してくれたり、要望や自宅での対応を伝えると実践してくれます」という声が寄せられていた。</p>				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	4	3	2	2
<p>「はい」の回答は36.4%、「どちらともいえない」の回答は27.3%、「いいえ」の回答は18.2%、「無回答・非該当」の回答は18.2%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。</p>				

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目		
サブカテゴリ-1			
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1		評点(〇〇〇〇)	
利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評価	標準項目		
確認済み	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		
確認済み	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		
確認済み	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		
確認済み	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		
サブカテゴリ-1の講評			
<p>利用希望者が保育園の情報を入手しやすく、区のサイトからもリンクが行われている</p> <p>利用希望者への情報提供の面では、法人のホームページに見られ、区の入園案内のもと入園後の園との関係性の構築に寄与させている。具体的には、園の理念や方針、目標、保育が具体的かつ丁寧に説明され、保育内容も明確に掲載されており、利用者は園選択の参考にできる内容としている。また、入園ガイドを郵送時施設見学、保育体験のお誘いをする中で、利用希望者が自分の子どもにとって相応しい園かどうか判断する材料にしている。会社のホームページやFaceBookでMIRATZ全園を紹介し、本園利用時の保護者の安心材料にも繋がっている。</p> <p>見学者対応と保育所サービスの個別対応が利用希望者の理解促進に繋がっている</p> <p>見学者の対応は基本的に園長が行っており、お子様の月齢やアンケートをもとに、イベントの案内やチラシの送付を行い、地域の保護者支援につなげている。また、栄養士主催のイベントでは給食の試食会も行われている。見学者の希望(時間帯や知りたい内容)についてだけでなく、現在サービスを利用している子どもや保育所のその時々状況を考慮されており、当該保育所が提供するサービスを利用希望者等の特性及び、その要求している事柄への個別対応、その時々保育所の状況を考慮して対応している。</p>			

サブカテゴリ2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		
確認済み	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		
確認済み	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		
確認済み	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		
確認済み	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		
サブカテゴリ2の講評			
<p>基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している サービスの開始にあたり、入園決定者に電話連絡を入れ、1～2週間以内に入園面接を行っている。園の概要や園の決まり事などは、重要事項「入園のしおり」にまとめ補足しながら説明している。また、家庭での生活や発達面、月齢を考慮し子どもに合わせて園生活をしていき、少しずつ園生活のリズムに近づけるよう配慮している。入園面接表に内容を記録し、面接シートには提出書類のチェックや説明しなければならない内容を記載して伝達漏れがないようにしている。また、子どもの発達の様子や保護者とのやり取り、仕事復帰時期などを記録している。</p> <p>利用開始直後の子どもの不安やストレスへの対応が行われている 慣らし保育は約20日間を設定しており、入園前面接にて保護者の仕事復帰時期を確認し、それに合わせて保育を設定している。また、入園前面接にて子どもが安心できるタオルやおしゃぶりなどがある家庭には、園でも使用していき、少しでも安心して過ごせるよう配慮している。慣らし日程表には、保育時間が徐々に長くなるに連れて、日々の持ち物も必要になってくるため、日程表に持ち物を記載したり、保育士からも声掛けを行っている。保育所での利用開始直後の子どもの不安やストレスへの対応として、それぞれの状況に合った対応が行われている。</p> <p>サービスの終了時は子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続を行っている 退園、転園する子どもには、今まで制作したものをまとめた制作帳をプレゼントしている。保護者とは退園、転園が決まり不安になっている部分を解消できるよう生活面などアドバイスを行っている。特にトイレトレーニングや着替えなどは転園先の園の決まりなどの情報を聞き、そこに合わせていけるよう配慮している。転園した子への継続した支援としては、その年に卒園した子は次の年の行事に招待している。招待する時の電話連絡の時や、当日お会いした時に最近の様子などを聞いている。</p>			

サブカテゴリ3

3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(000)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		
確認済み	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		
確認済み	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(00000)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している		
確認済み	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている		
確認済み	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている		
確認済み	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している		
確認済み	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている		

評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	
確認済み	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	
確認済み	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	
確認済み	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	
サブカテゴリー3の講評		
<p> 子どもの心身状況や生活状況等は、連絡帳や児童票などに記載して伝えている 子どもの心身状況や生活状況等は、連絡帳や児童票、送迎時の伝言ボードに記載して伝えている。子どもや保護者のニーズ、課題は個人月案に記録され、子どもの成長、家庭での状況を踏まえ、その時期に必要な支援に取り組んでいる。また、保護者と連絡帳の記入の仕方は統一し、子どもの1日の様子を簡潔に分かりやすく記入している。 </p> <p> 三つの視点を念頭に置き、子どもたちの成長を捉えるように配慮している 0～2歳児は月単位に振り返りの記録を残し、養護・教育・健康・喫食状況などのほか、保育所保育指針に基づいた「三つの視点」や10の姿の視点から成長を捉えるように配慮しています。当園では、全職員ですべての子どもを見守っていく体制が整えられており、園側からのコメントを記載した連絡帳を事務所の前に設置して他クラスの子どもの連絡帳にも目を通して見守っています。また、子どもに対しての気づきを語り合うミーティングの充実を図り、保育計画や個人別指導計画にも全職員の気づきを反映させています。 </p> <p> 一人一人の子どもの状況を統一した様式で把握し、情報を共有している 園では一人一人の成育歴を踏まえた子どもの姿を正確に記録し、成長を把握しています。個別日誌には、園生活の一日の様子、養護と教育、食育の視点で記録し、連絡帳や受入れ時の情報も追記している。全ての記録を園長及び主任を含めた全職員で確認している。伝言ボードや回覧チェック表などを使い、子どもの情報、記録を共有できる体制が整っている。また、書類作成が苦手な職員は、分からない事はそのままにせず担任同士や主任や園長に相談できる仕組みがある。保護者からは「自分の子どもを全職員で見守られていることがわかる」と評価を得ている。 </p>		

サブカテゴリ5		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 子どもに関する情報(事項)を外とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている		
確認済み	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		
確認済み	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		
確認済み	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		
サブカテゴリ5の講評			
<p>子どもに関する情報を守るしきみを整え、慎重に対応している</p> <p>子どもに関する情報の取扱いは重要事項説明書に明示して入園時に説明し、子どもが映る写真には必ず同意書を得て対応している。また、職員には、入職時に個人情報保護の誓約書に署名、捺印してもらい、個人情報を口外しないように努めている。基本的に他言しない、掲示しないなど他人に情報が入らないようにしている。個人の携帯電話は保育室に持ち込まないなど、ルールを徹底している。さらに、プライバシーの保護や個人の尊厳に対する意識を高め、おむつ替え、着替えの際は特定の場所で行い、子どもの体が見えないよう配慮している。</p> <p>保育理念でもある寄り添いの姿勢を目指し、あたたかい保育を心がけている</p> <p>職員は、丁寧な保育を行うと共に、集団生活の中でも子ども一人一人の言葉を拾い、受け答えしている。入園面接や入園までの生活状況を把握した上で、保育に当たっている。職員会議で一人一人の様子や特徴を伝えてもらったりして、保育活動の中でどのように応えるべきかということに関する意見交換なども行っている。子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている。基本的な生活習慣の大切さなどは、日々の連絡帳や園だより、保健だよりで伝えている。今までの子どもたちの姿を受け止め、子どもにとってより良い環境の提供をしている。</p>			

サブカテゴリ6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		
確認済み	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		
確認済み	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		
確認済み	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		
サブカテゴリ6の講評			
<p>基本的な業務手順書や法的必須事項、非常時対応等のマニュアルが整備されている</p> <p>法人で統一された保育の基本業務についての手順書やマニュアルがあり、法的に必須な項目や非常時対応についてのマニュアル類も整備されていて、それらは事務所に配置され、職員は常時閲覧することが可能になっている。自主検査表にて毎日確認している。その年により子どもや職員の変化もあるため、毎年見直しを行っている。基本的にはマニュアルや手順書に沿って業務を行っており、毎月の職員会議や何か疑問が発生した時などでも、確認するようにしている。</p> <p>園運営については、行事や保育の反省を次年度の参考に役立っている</p> <p>園運営については、少しずつ改善をしており、特に、コロナも落ち着いてきた為以前のように保護者に入室してもらい、送迎時の支度をお願いしている。保護者に関わってもらう事で、不足しているものの確認や荷物チェックを毎日行っている。人数制限もしていないため、時間帯が同じ保護者同士の交流の場にもなるようになり、子どもの制作物や園内の様子は見てもらえるようになった。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ4	
		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	35/35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		
確認済み	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している		
確認済み	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		
確認済み	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		
確認済み	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		
評価項目1の講評			
<p>子どもの特性や発達を考慮し、子ども同士が育ちあえるように配慮している</p> <p>子ども一人一人の発達や成長した点などは個人記録や個人月案に記載し、日々の連絡帳や伝言ボードに目を通し、その日の体調などに合わせて保育をしている。検討が必要な内容は、ミーティングを行い職員間で相談できる機会を設け、保育に反映している。特別な配慮が必要な子どもの保育にあたっては、全体で活動を行いながら、発達の様子をみながら保育者が個別について援助している。子ども同士が毎日一緒に過ごすことで、友だちの影響を受けながらできなかったこともできるようになるなど子どもの様子を確認しながら保育を行っている。</p> <p>異年齢と交流する機会多く持ち、互いを尊重する心を育てている</p> <p>誕生会や行事の際は、全クラスが集まって集会を行っている。0~2歳児の子どもがわかりやすい内容にすることで楽しく安心して会に参加でき、他クラスへの興味・関心にもつなげている。誕生会は誕生月の子どもがみんなの前に出ることで存在を認め合っている。遊びでは子どもが自ら興味を持つということが大切だという考えのもと、子ども一人一人が集中して遊べる環境を作っている。保育者も一緒に遊びながら、玩具の使い方や楽しみ方を伝えている。分かりにくいことなどは、絵本や歌、手遊びなどを通して、分かりやすく伝えている。</p> <p>発達過程で起きるトラブルは気持ちに寄り添い、関わりを大切にした対応に努めている</p> <p>年度当初の職員に向けた研修では、子どものトラブル対応について周知していると共に、実際に起きてしまった際の職員対応の仕方を丁寧に伝えている。例えば噛みつきは、子どもではなく園として防げなかったことをしっかりと職員が理解し、保護者に伝えている。また、保護者には、トラブルが起こった前後の状況説明をし、職員配置についても伝えている。子どもの対応については、まだ言葉を話せない、理解できない月齢であっても保育者が必ず双方の子ども気持ちを代弁して気持ちを受け止めたり、伝えたりしている。</p>			

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目
確認済み	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している
確認済み	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している
確認済み	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している
確認済み	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている

評価項目2の講評

登園時には家庭での子どもの様子を保護者に確認し、降園時には園での様子を伝えている

登園時は保護者に子どもの体調を確認し、園生活の中で配慮を要する点等を聞いている。また、連休明けや週明けは休み中の様子も確認している。職員間で共有したい内容は伝言ボードに記載すると共に保育中に配慮する点は担任同士で確認して保育に反映している。降園時は、連絡帳と共に口頭でも園での様子を伝えている。申し送り事項は伝言ボードを活用し、対応する職員は必ず確認して保護者に伝え忘れないようにしている。詳細説明が必要な時は担任から伝えている。発達や成長の様子などを共有したい時には画像を活用するなど工夫している。

基本的な生活習慣の獲得に向け、個々の発達の状態に応じて家庭と連携して取り組んでいる

基本的な生活習慣の獲得に向けて、例えば食事面では完食することを目的とせず、楽しく食事することを大切にしている。離乳食から幼児食刻みまで、子どもの歯の生え方、咀嚼力を家庭の様子も踏まえて決めている。着替えなどは子どものやる気を大切に援助している。トイレトレーニングは子どもの成長に合わせて個々に開始し、家庭との連携に努めている。食事、着替え、トイレトレーニングについては強制せず、子どものやる気を引き出せる言葉かけを大切に、子どもがやる気を見せた時、できた時は大いに褒めて自信につなげている。

休息は年齢や生活リズム、体調などを考慮し柔軟に対応している

休息(午睡を含む)の長さや時間帯は、その日の起床時間などを考慮し、子どものその日の姿に合わせて、ゆったりとした活動やしっかりと午睡ができる環境を整えるなど、子ども一人一人に合わせて配慮している。早めの入眠や園で設定している午睡時間が過ぎても起こさないなど、柔軟に対応している。子ども一人一人の生活リズムの確立については、家庭との生活の連続性を考慮し、園での様子も伝えながら家庭での様子も確認している。できるだけ毎日同じリズムで生活していけるようアドバイスをしたり、問題点を一緒に解決していったりしている。

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	
確認済み	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	
確認済み	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	
確認済み	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	
確認済み	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	
確認済み	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	
評価項目3の講評		
<p>一つの遊びで発想力・想像力・行動力・実行力・集中力など様々な能力を育てている 0歳児は様々な素材の物、指先を使う玩具を用意し、保育士もそばにつき添いながら集中して遊べる環境を整えている。1・2歳児は棚に玩具を収納し、子どもの目線から見やすい位置に置き、かごには玩具の写真を付けて、好きな玩具を選び、取り出せるようにしている。子どもの興味・成長に合わせて形や素材、しかけ、色などに配慮した手作り玩具を多く取り入れている。子どもは遊びの中から発見や沢山の刺激を多く受けるので、大切な行動だと捉え、子どもが自発的に遊びこめる時間と空間の配慮をしている。</p> <p>子どもの言葉を育み、個々の子どもが遊びの中で表現していることを大切にしている 保育者が絵本を読んだり、子どもに声掛けをしたりすることで、子どもの発語が促され、表現できるようにしている。季節の歌も各クラスで決め、朝の会や日常で歌い、普段から歌に触れている。季節の歌も、朝の会だけと決めず、自由遊びの時やちょっとした時間など、いつでも子どもと一緒に歌うことで、子どもも覚えて一緒に歌えるようになり、歌や音楽の楽しさを味わえるようにしている。毎月の制作や季節の制作では、子どもの年齢に合わせた物を考え、絵具やのりを使い感触を味わえるようにしている。</p> <p>その季節しか味わえない自然物に触れる機会を持ち、戸外活動を楽しんでいる 戸外活動では、年齢や目的によって公園を選び散歩に出かけている。室内では知ることが出来ない自然環境を知る良い機会として、公園や道中に咲いている花を立ち止まって見たり、色や形の変化を伝えたりしている。寒い時期には口から吐く息が白いことなど、その季節の中で感じられる一つ一つを伝えている。また、思い切り走り回る、坂を上る、階段を下りるなど、身体運動を行い、すべり台や砂場遊びなど、室内でできない遊びも積極的に行っている。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	
確認済み	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	
確認済み	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	
評価項目4の講評		
<p>子どもたちが興味をもって楽しく取り組めるような行事を実施している</p> <p>季節の行事(七夕、クリスマス会、節分、ひな祭り)は子どもが興味や関心を持てるように理解しやすい内容で取り組み、集会以外でも給食やおやつで行事に親しみが持てるようにしている。行事に関する絵本や紙芝居も園にある物だけでなく、図書館で借りてくるなど、子どもが行事に対して意欲的に取り組めるように援助している。保護者参加行事(夏まつり、保育参観)では、子どもだけでなく保護者も息抜きをして楽しめる場となるように取り組んでいる。</p> <p>子どもが楽しめて、自身を持ってやり遂げる経験を味わえるような行事を実施している</p> <p>クリスマス会ではクラスごとに楽器遊びや歌を歌うことに取り組んでいる。練習も無理のないよう、日々の遊びの中で行うことで子どもが楽しく取り組めるような内容にしている。クリスマス会では、クラスの友だちや担任がいるとこで人前に立ち、自信を持ってやり遂げる経験を大切にしている。</p> <p>年間行事予定を配布し、見通しを持って参加の予定を立てられるように配慮している</p> <p>保護者には入園時、進級時に年間行事予定を配布して、子どもたちで楽しむ行事、保護者が参加する行事を説明している。夏祭りや保育参観では、行事後に保護者にアンケートを配布し、その行事についての意見を聞き、次の行事に生かしている。行事への意欲的な取組を通して子どもの発達が促されるよう保護者の理解を得るために、懇談会の機会などを通じて、行事の目的や行事の内容、月齢にあった行事内容などを伝えている。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	
確認済み	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	

評価項目5の講評

長時間保育の中、静と動のバランスを考慮し子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている
 開園から9時まで、16時15分から閉園までは合同保育を行い、他クラスの子どもと過ごすことで人数が少なくならず、寂しい気持ちにならないように配慮している。クラス月案や個人月案には、長時間保育になる子どもの配慮などを立案している。時間帯をみながら、遊びの静と動のバランスを考慮し、ゆっくり過ごしたり、遊びに誘ったり、子どもが寂しい気持ちにならないような関わりをしている。保育者は、職員会議や伝言ボードなどで子どもの様子を共有し、安心して過ごせるように配慮している。

異年齢との合同保育になる時間帯でも子どもが安心して楽しく過ごせるよう配慮している
 朝と夕方の合同保育では、異年齢の子ども同士の関わりになるため、安全面を考慮し、玩具の選別をしっかりと行っている。例えば、玩具を口に入れる年齢の子どもがいる時は、誤飲に繋がるような大きさの玩具は片付けている。異年齢の子どもが同じ部屋で過ごすことで他児への興味・関心などにつながっている。また、担任以外の保育者と触れ合って遊ぶ機会にもなっている。子どもが安心してくつろげるよう、一人一人の子どもが好きな遊びができ、ゆっくり寝転がれる場所を用意している。

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	
確認済み	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	
確認済み	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	
確認済み	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	
確認済み	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	

評価項目6の講評

子どもが食事を楽しく食べられるようにメニューや雰囲気づくりに配慮している
 給食前には子どもたちに献立を伝えて食事に向け期待を持って過ごせるよう配慮している。適度な会話をしながら、さりげない援助、声掛けをして、ゆったりとした空間を提供している。献立は毎月、管理栄養士が作成しており、食育計画をもとに、毎月の旬の食材を使用し、子どもが食べやすい形態で提供している。味付けやメニューが毎日同じようなものになっていないか、家庭でも摂取しやすい、調理しやすい食材を取り入れているかなど、栄養士と園長で確認している。また、毎月栄養士会議を実施し各クラスの喫食状況などを把握して献立に生かしている。

体調や食物アレルギー、離乳食など安全性に配慮した食事の提供に努めている
 形態・アレルギー確認表は毎月作成し、園長、主任、栄養士、担任、が確認し捺印している。また、未摂取食材も記入。食物アレルギーのある子どもは、医師からの生活管理指導を提出してもらい、その指示に従って提供している。配膳時も保育士と栄養士で確認表を用いて相互でしっかり確認してから受け渡しを行っている。体調がすぐれない子どもは、保護者に確認し、乳製品をなしにするなどの対応をしている。色々な食文化に触れられるよう、異国料理を提供する機会を設けている。

食材に触れるだけでも「食育」である、という考えのもと食育活動を行っている
 毎月1回、その月の旬な食材に触れる食育を行っている。導入としてその食材に関する写真や絵本を用意し、子どもに分かりやすく説明している。また、野菜を裂く、ちぎる、皮むき、洗う、野菜スタンプという体験もしている。食を営む力の基礎を培うために保育者が介助をしながら食材の名前を伝え、「おいしいね」と会話も楽しみながら食べられるよう援助している。食べ物の写真が載っている絵本を見るなど、普段の遊びの中でも食に対する関心が持てるよう誘っている。保護者には保育参加時に子どもと一緒に給食を食べてもらうプログラムを計画している。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	
確認済み	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	
確認済み	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	

評価項目7の講評

子どもが健康や安全に関心を持ち、病気や怪我を予防・防止できるように援助している

子どもが安全に関心を持ち、怪我を予防・防止できるように、危険な場面では、こうしたらどうなる、などを簡潔に子どもに伝えて、意識しながら遊べるように配慮している。健康教育では、絵本などを用いて、健康に関することや安全に関することを分かりやすく伝えている。戸外活動時にも危険を伝えたり、怪我をしないためにどうするかを一緒に考えたり、分かりやすく伝えている。職員は、事故防止につながるよう、ヒヤリハット報告書を作成し日々の危機管理を行っている。

健康維持に繋がる啓蒙を行い、子どもたちの健康促進に努めている

子どもの体調の変化は、クラス日誌や職員会議等で報告をし、職員間で周知している。保護者には感染症が出た場合は速やかに知らせ、その病気の特徴などを伝えている。咳や鼻水症状の際には、子どもが快適に園生活を送れるよう、午睡時に呼吸のしやすい態勢にしたリ、鼻水をすぐにふき取ったりするなど清潔保持に努めている。子どもが午睡する際は、咳などが直接かからないように、頭の位置を交互にするなどして配慮している。

保護者と連携をとって、子ども一人一人の健康維持に向けて取り組んでいる

乳幼児突然死症候群の予防のため、0歳児は5分に1回、1・2歳児は10分に1回、午睡チェックを行い、子どもの表情がしっかりと確認できる明るさを保った環境にしている。乳幼児突然死症候群の予防においてうつぶせ寝をさせないことが重要であると捉え、入園のおしりには、家庭でもうつぶせ寝の習慣をつけないよう協力をお願いしている。保健日よりでは、病後の子どもたちの体調に留意し無理のない登園をお願いしたり、0～2歳児期に多い病気の紹介をしたりしている。感染症が出た場合は感染症情報を掲示すると共に口頭でも伝えている。

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
確認済み	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	
確認済み	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	
確認済み	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	
確認済み	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	
確認済み	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	

評価項目8の講評

保護者の子育てや就労等の個々の事情に配慮し、信頼関係が深まるよう取り組んでいる

保護者の仕事状況、家庭環境を把握し、保護者と話し合い、納得できる保育時間を決めている。要望などがあった場合は園として対応できること、できないことを明確に伝え、柔軟な対応に努めている。職員は、保護者との信頼関係をしっかりと築けるよう心掛け、登・降園時の「いってらっしゃい」「お帰りなさい」を大切にしている。日中の子どもの様子は、連絡帳や口頭で伝え、特に体調面は細かい所まで伝えている。今回実施した利用者調査結果からも、日々の様子を丁寧に伝えている様子が窺える。

保護者会や保育参観では、保護者同士が交流する機会を設けている

保護者同士が交流できる機会として、保護者会では、保護者同士が気軽に話ができる内容や雰囲気を作り、情報交換などを行えるようにしている。保育参観では、親子ゲームなどを取り入れ、保護者同士も関わりを持てるようにしている。保護者会では子どもの発達や育児などについて園生活の見通しがもてるように説明をしている。また、園と保護者が一緒に子どもの成長を見守り、協力していくことの大切さを伝えている。日々の子どもの成長については、できるようになったことを保護者と保育者で共に喜び共感している。

保護者と園で子どもの育ちに関する共通理解の形成に取り組んでいる

保育参加は、保護者が子どものクラスに入り一緒に過ごすことで、他児の成長を見たり、自身の子ども姿を見たりする機会としている。そこからの自身の子育ての気づきを一緒に考え、家庭での育児に役立てられるような場としている。保育参観は、子どもの様子を保護者が隠れて見られるよう工夫し、子どもたちの普段の姿を見てもらっている。登降園時のやり取りや連絡帳で相談ごとがある際には、親身になって話を聞いたり、アドバイスをしたりしている。必要であれば、保護者と保育士がゆっくり話し合う機会がもてるよう時間を設けている。

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	
確認済み	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	
評価項目9の講評		
<p>積極的に散歩にでかけ、地域の社会資源を活用して様々な体験ができる機会を設けている</p> <p>戸外活動では、近隣住民や商店街など、地域の人とあいさつを交わし、交流を重ねており、一緒に子どもの成長を見守ってもらう存在となっている。地域の公園を活用し、広い場所でのびのび体を動かし、地域の子育て親子や他園との交流も図っている。近隣の子どもセンターや連携園に遊びに行くなど、より良い関係作りに繋げている。地域の子育て家庭が保育園の行事に参加しやすいように、園の前に掲示板を設置して、案内を掲示し、SNSでも情報発信している。</p> <p>園の理念のもと、地域交流を大切に行っている</p> <p>地域との交流は「心豊かなエコ環境と優しい地域社会に生き生きと共生する子どもを育む」の理念のもと地域に園の存在を知ってもらい、子どもの成長と一緒に見守ってもらう存在として大切に取り組んでいる。地域の子育て家庭への支援も積極的に取り組み、園への行事への参加や育児相談のイベントなども行っている。誕生日会や行事に参加してもらうことで同じ年齢の子どもたちと関わる機会を設けている。地域の高齢者福祉施設とは、歌を披露したり、一緒に歌ったり、握手などのスキンシップも行っており世代間交流の場としても貴重な体験をしている。</p>		

Ⅲ 利用者保護に関する項目

利用者保護に関する項目		標準項目実施状況	9/9
1	評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている	評点(〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		
確認済み	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		
2	評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている	評点(〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		
確認済み	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		
3	評価項目3 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる	評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている		
確認済み	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている		
確認済み	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している		
確認済み	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる		
確認済み	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		
利用者保護の講評(※利用者保護の内容から3つ(必須)記載してください)			
<p>苦情解決、虐待対応・予防にはシステムを整備し、職員に周知を図っている</p> <p>苦情解決については、利用契約書に苦情相談先を記載し、保護者等に説明を行い、玄関にも苦情要綱を置いている。今回の保護者アンケートでは第三者への相談周知について若干数値が低かったため、保護者への周知徹底に一層の工夫等が期待される。利用者の意見に対して、担任では解決できない問題はすぐに、園長に報告。内容を協議し、速やかに回答している。苦情相談窓口を通じた場合は会社として本部と協議し解決策を決めている。</p> <p>職員の自己評価と研修による虐待防止の取組を行っている</p> <p>利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員は年に1回、自己評価を行い、振り返りを行っている。日々の言葉使いも研修で周知し、職員の言動において気になる点がある場合はクラス会議や個人面談時に伝えている。虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、北区子ども家庭支援センターに連絡を入れる。また、朝の受け入れ時視診を行っている。着替えの際には子どもの身体チェックを行っている。</p> <p>大規模災害時の対策や訓練を行い、防災体制を強化している</p> <p>大規模災害を想定した訓練や怪我や事故への対応について対策を講じている。地震の想定被害に加えて、備蓄品は避難場所の子どもと全職員の必要日数分を備蓄したりするなど、非常時への対応に関する対策を積極的に講じている。消火訓練や通報訓練、心肺蘇生訓練などは非常勤職員や調理も行っている。事故が起きた際は、事故報告書を作成し、原因、対処法を記入し、再発防止のために、職員全員に回覧している。今後はこれらの諸計画を統合した事業継続計画(BCP)の策定の取組取に期待している。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル①	地域貢献活動としてボランティアの受け入れを積極的に行っている	
内容①	今あるリソースを活用し、子育てに役立つ情報を地域の親子に提供するなど検討することで、地域貢献活動に取り組んでいる。当園は小規模認可保育所として0～2歳児保育を行うとともに、地域の小学生や高校生などのボランティアの受け入れなど、地域に向けて園のもつ専門性を活かした地域貢献活動に取り組んでいる。職員数が少ない小規模園でもあるので、職業体験やボランティアの受け入れも実施し、開かれた園を目指している。在宅で過ごす0歳児を対象とした、離乳食試食会やふれあい遊び、育児相談などの保育園体験も企画している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル②	保護者と園で提供する食材を丁寧に確認して、食事を進めている	
内容②	入園時には、個々の子どもの離乳食や食事の状況を詳細に確認し、園での食事を開始している。入園後、未食の食材がないかの確認は、0～2歳児クラスの全園児で実施しており、月の献立表を事前に保護者に渡し、未摂取食材やアレルギーで除去が必要な食材の確認後、署名した献立表を返却してもらっている。未摂取の食品等を園では提供しないように、給食職員及びクラス職員のダブルチェックを実施して、安心・安全な食事を提供している。この取組では、未食の確認だけでなく、園で取り扱っている食材やメニューなどを確認してもらう機会にもなっている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	専門性を身につけることで、子どもの発達に関する知識など、保育の最新の情報を常にキャッチアップしている
	内容	園では、年間の研修計画を作成し、保育力の向上などを考慮して取り組んでいる。研修に参加した保育士は、レポートで報告するとともに、全体ミーティングの場で発表し、研修で学んだことを共有し、実践に活用している。また、すべての保育士がキャリアアップの全分野習得を目指しており、毎年一分野を習得できるよう計画的に研修に参加している。保育士一人一人が専門職としてスキルアップを重ねることで、より豊かな子どもの成長を助長できる保育士に育つことを目指している。
2	タイトル	家庭内では体験できないことを体験できる機会として異年齢で過ごす時間を大切にしている
	内容	小規模保育園というメリットを生かして、子どもの成長に合わせた丁寧な保育に努めている。園は、家庭内では体験できないことを体験できる機会として異年齢で過ごす時間を大切にしている。行事の参加では、0～2歳児の子どもがわかりやすい内容にすることで楽しく安心して会に参加でき、他クラスへの興味・関心にもつなげている。自由時間で1・2歳児が0歳児と過ごす時間をもつなど、交友関係の拡大につながるよう異年齢交流の機会を多く作り、安全に配慮しながら保育を展開している。
3	タイトル	保護者と保育士がより良い関係を築きながら共に子どもの成長を支えられるよう取り組んでいる
	内容	0～2歳児園として、登降園時の保護者とのやり取りを大切に、職員で情報を共有しながら保育に反映している。保育参観や保育参加、懇談会、掲示物、SNSでの発信、連絡帳などを通じて保護者に保育内容を伝えている。保育参加では、保護者も朝の登園から一緒に過ごし、朝の会から昼食までを子どものクラスで過ごしている。また、保育参加後はその当日に個人面談も行うことで子どもの成長・発達を共有したり、育児の相談を受けたり、保護者と保育士がより良い関係を築きながら共に子どもの成長を支えられるよう取り組んでいる。
No.	今後の課題と思われる点	
1	タイトル	リスクマネジメントの取組は行われているが、運営・経営危機を未然に防ぐための園運営の将来像をも含めた事業継続計画の策定に期待したい
	内容	リスクマネジメントの最大前提として「子どもの安全・安心」を最優先させ、ヒヤリハット、怪我の報告記録を行って事故の未然防止に努めている。園独自に不審者、応急救護、アレルギー対応等のマニュアルを整備し、各種想定を変えての防火や災害対応の訓練も実施していて、新型コロナに対しても対応フローチャート等を策定する等、その取組は高く評価されるが、多面的な社会的・物理的な状況変化に伴う組織の運営・経営危機を未然に防ぐための園運営の将来像をも含めた事業継続計画(BCP)の策定も進めていってほしいと思います。
2	タイトル	運営を安定させていくために新入園の子どもを獲得に向けた活動をより一層充実させていくことに期待したい
	内容	新入園の子どもを獲得するために、ホームページやSNSを通じた広報活動をしているが、現在定員枠に対して利用している利用児数が少ない状態となっている。利用児数を一定数確保するためには、地域のニーズを調査し、それに合わせたサービスを提供することが要となってくる。それには、独自の特色を打ち出すことや、SNSやウェブサイトを活用して、日常の保育の様子やイベント情報を発信すること、地域のイベントやフェスティバルに参加しアピールすることなど、さらなる広報活動等を検討してみてもどうか。
3	タイトル	今後も、より一層の地域とのかかわりを増やしていくことに期待している
	内容	地域との交流は法人理念のもと、地域に園の存在を知ってもらい、子どもの成長と一緒に見守ってもらう存在として大切に取り組んでいる。高齢者福祉施設とはコロナ禍でもビデオレターを送るなど工夫しながら交流を重ねてきている。また、地域への子育て世代への支援や小・中・高校生の職場体験やボランティアへの受け入れなども積極的に行っている。今後も「心豊かなエコ環境と優しい地域社会に生き生きと共生する子どもを育む」理念のもと、子どもの多様な体験や交流の機会となるよう、より一層の地域とのかかわりを増やしていくことに期待している。